

2019年度 春学期

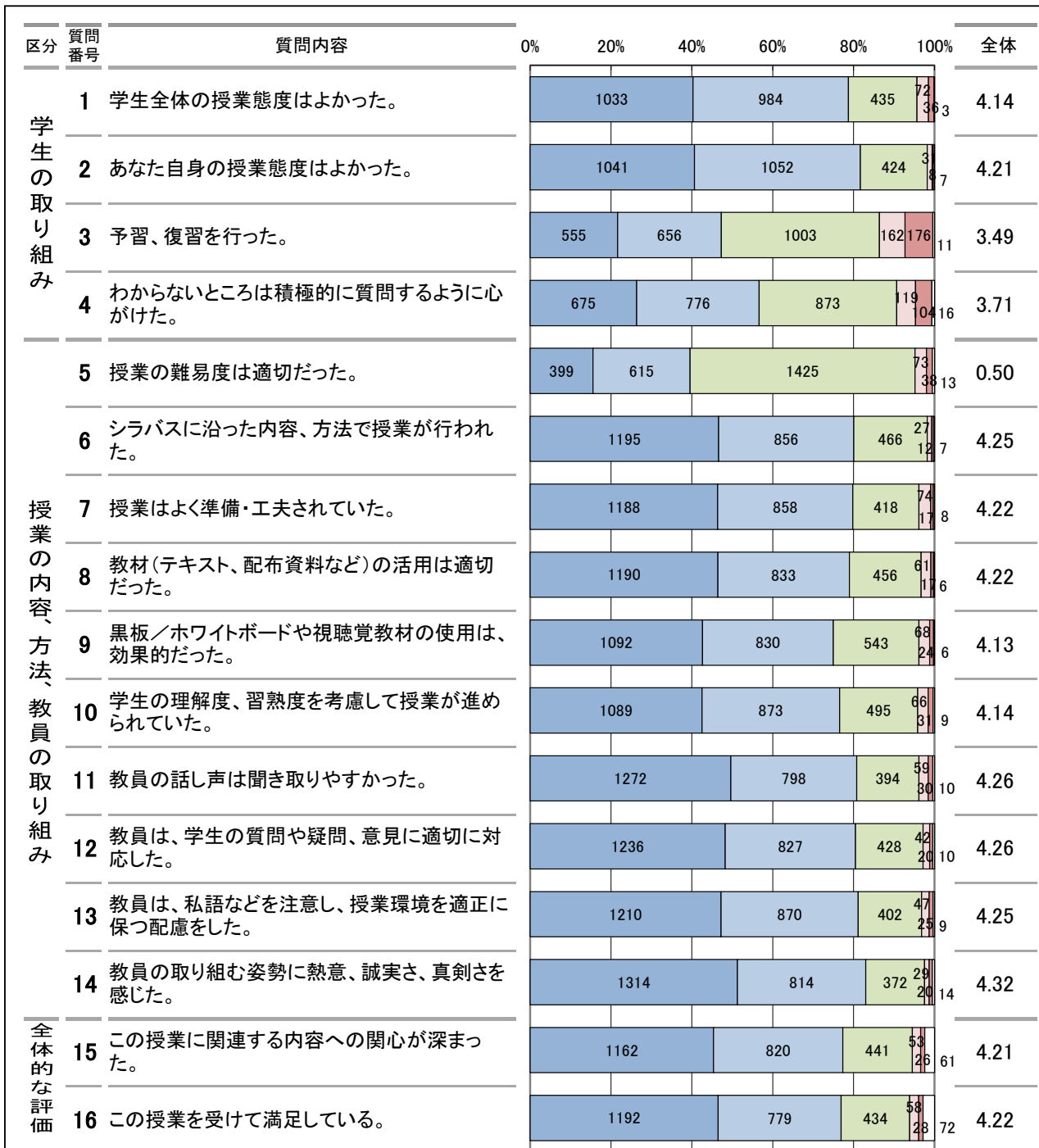
学生による授業評価と授業改善のためのアンケート

結 果

(全体集計抜粋版)

1. 全体集計

全体集計	履修者数	2781	回答者数	2563	回答率	92%
------	------	------	------	------	-----	-----



グラフ内数字は回答数

■回答番号凡例

	質問1~4、6~16	質問5
■	強くそう思う	難しすぎた
■	ややそう思う	やや難しかった
■	どちらとも言えない	適切だった
■	あまりそう思わない	やや易しかった
■	全くそう思わない	易しすぎた
■	不明(無回答を含む)	

■科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強くそう思う	5	難しすぎた	2
ややそう思う	4	やや難しかった	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまりそう思わない	2	やや易しかった	-1
全くそう思わない	1	易しすぎた	-2

講義	履修者数 1493	回答者数 1365	回答率 91%
----	-----------	-----------	---------

区分	質問番号	質問内容	0%	20%	40%	60%	80%	100%	全体
学生の 取り 組み	1	学生全体の授業態度はよかった。	502		543		245		4.07
	2	あなた自身の授業態度はよかった。	517		578		242		4.16
	3	予習、復習を行った。	285	335		555		92	3.46
	4	わからないところは積極的に質問するように心がけた。	299	378		525		82	3.55
授業の 内容、 方法、 教員の 取り 組み	5	授業の難易度は適切だった。	209	343		758		32	0.51
	6	シラバスに沿った内容、方法で授業が行われた。	632		453		253		4.23
	7	授業はよく準備・工夫されていた。	602		466		231		4.17
	8	教材(テキスト、配布資料など)の活用は適切だった。	627		444		240		4.20
	9	黒板/ホワイトボードや視聴覚教材の使用は、効果的だった。	585		446		276		4.14
	10	学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。	548		469		283		4.09
	11	教員の話し声は聞き取りやすかった。	652		436		228		4.24
	12	教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した。	617		457		254		4.21
	13	教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした。	625		469		229		4.23
	14	教員の取り組む姿勢に熱意、誠実さ、真剣さを感じた。	665		451		214		4.28
全体的な 評価	15	この授業に関連する内容への関心が深まった。	559		455		267		4.13
	16	この授業を受けて満足している。	567		443		258		4.14

グラフ内数字は回答数

■回答番号凡例

	質問1~4、6~16	質問5
	強く思う	難しすぎた
	やや思う	やや難しかった
	どちらとも言えない	適切だった
	あまりそう思わない	やや易しかった
	全くそう思わない	易しすぎた
	不明(無回答を含む)	

■科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強く思う	5	難しすぎた	2
やや思う	4	やや難しかった	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまりそう思わない	2	やや易しかった	-1
全くそう思わない	1	易しすぎた	-2

実技・演習	履修者数	1288	回答者数	1198	回答率	93%
--------------	------	------	------	------	-----	-----

区分	質問番号	質問内容	0%	20%	40%	60%	80%	100%	全体	
学生の 取り 組み	1	学生全体の授業態度はよかった。	531		441		190	21	4.21	
	2	あなた自身の授業態度はよかった。	524		474		182	19	4.26	
	3	予習、復習を行った。	270	321		448		70	84	3.52
	4	わからないところは積極的に質問するように心がけた。	376		398		348	37	30	3.89
授業の 内容、 方法、 教員の 取り 組み	5	授業の難易度は適切だった。	190	272		667		41	18	0.48
	6	シラバスに沿った内容、方法で授業が行われた。	563		403		213	11	3	4.27
	7	授業はよく準備・工夫されていた。	586		392		187	26	4	4.28
	8	教材(テキスト、配布資料など)の活用は適切だった。	563		389		216	22	6	4.24
	9	黒板/ホワイトボードや視聴覚教材の使用は、効果的だった。	507		384		267	29	9	4.13
	10	学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。	541		404		212	31	6	4.21
	11	教員の話し声は聞き取りやすかった。	620		362		166	29	16	4.29
	12	教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した。	619		370		174	23	5	4.32
	13	教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした。	585		401		173	28	8	4.28
	14	教員の取り組む姿勢に熱意、誠実さ、真剣さを感じた。	649		363		158	17	6	4.37
全体的な 評価	15	この授業に関連する内容への関心が深まった。	603		365		174	20	10	4.31
	16	この授業を受けて満足している。	625		336		176	20	11	4.32

グラフ内数字は回答数

■回答番号凡例

	質問1~4、6~16	質問5
	強く思う	難しすぎた
	やや思う	やや難しかった
	どちらとも言えない	適切だった
	あまり思わない	やや易しかった
	全く思わない	易しすぎた
	不明(無回答を含む)	

■科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

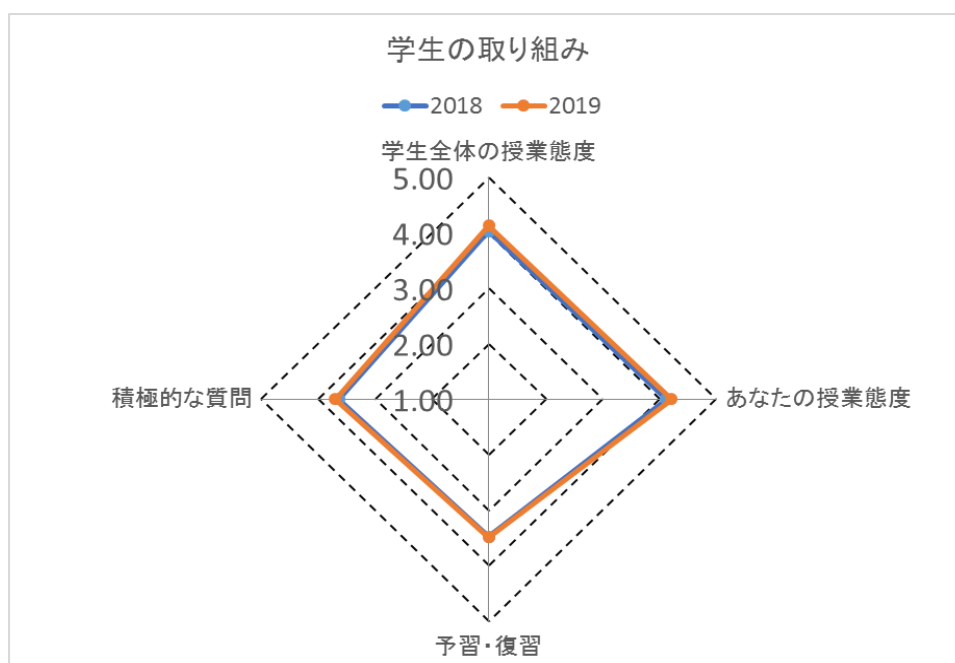
選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強く思う	5	難しすぎた	2
やや思う	4	やや難しかった	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまり思わない	2	やや易しかった	-1
全く思わない	1	易しすぎた	-2

春学期全体集計について

1 回答率について

92%（履修者数 2781 人，回答者数 2563 人）の回答率であった。昨年度春学期の回答率 88%よりも 4 ポイント上昇した。全体として 9 割を上回る回答率であり，アンケートに協力してくれた全ての学生及び非常勤を含めた全ての教職員の皆様の協力の深謝したい。今後も，高い回答率を維持していかれるよう，全学的な努力を続ける必要がある。なお，講義系 91%（昨年度春 88%），実技・演習系 93%（昨年度春 87%）の回答率であり，講義系で 3 ポイント，実技・演習系で 6 ポイントの上昇がみられた。

2 学生の取り組み（全体）について



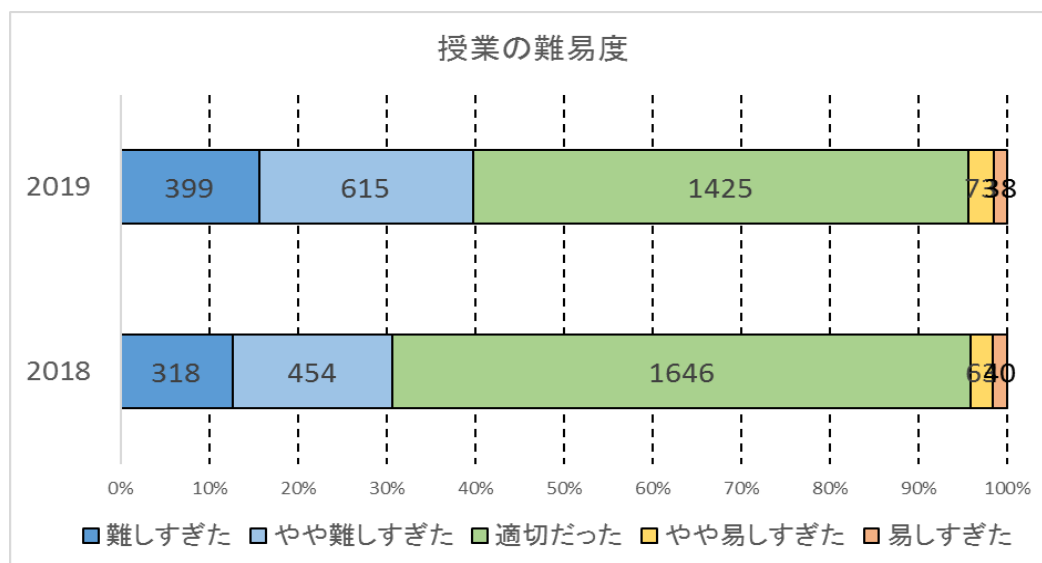
本アンケートは 5 件法で実施され，「強くそう思う」・「全くそう思わない」を順に 5-1 点の重み付けをして統計処理した。昨年度と比べて「学生の取り組み」は概ね同傾向であった。授業態度に比べて，積極的な質問と予習・復習の評定がやや低いという傾向はこれまでと同様である。

「学生全体の授業態度はよかった」は，2019 年度 4.14（2018 年度 4.03）で昨年度に比して 0.1 ポイント上昇している。「あなた自身の授業態度はよかった」は，今年度 4.21（昨年度 4.11）で 0.1 ポイントの上昇であった。「予習・復習を行った」は今年度 3.49（昨年度 3.48）で横這い，「わからなかったところは積極的に質問するようにところがけた」は今年度 3.71（昨年度 3.64）で 0.07 ポイント上昇している。

学生全体の授業態度に較べて，自身の授業態度は良いとの評価傾向は各年度共通の傾向であり，やや自己評価が甘い面があるように思われる。予習・復習の値は，各授業で改善を図り今後 4.00 以上になることを目指したい。また，わからないことに対して積極的に質問するようになるためには，学びに対する積極的な態度を育てていってほしいと同時に，質問しやすい環境を整える工夫もさらに進めたいところである。また，予習・復習に結び付けられる課題や学習方法を工夫したり，わからないところを解決する方法やヒントを提示するなどの工夫も必要であると思われる。

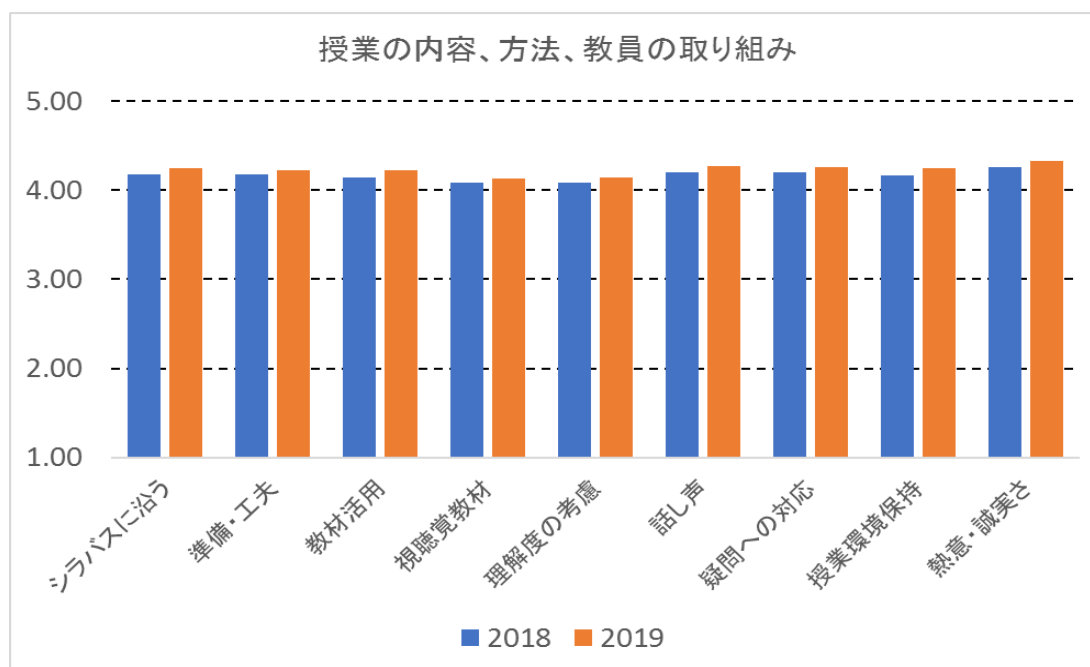
3 授業の内容, 方法, 教員の取り組みについて

(1) 難易度について



「授業の難易度は適切だった」への回答の平均値は 0.50 (昨年度 0.38) であり, 全体としては概ね難易度が適切な科目が多かったと判断できるが, 「難しすぎた」, 「やや難しすぎた」の割合が丁度 40% であり, 昨年よりも 10 ポイント程増えている。この結果は, 質問 16 「この授業を受けて満足している」の結果と関連づけて見る必要があるが, まだ 4 割の学生にと難易度が高いと感じていることに配慮しなければならないであろう。

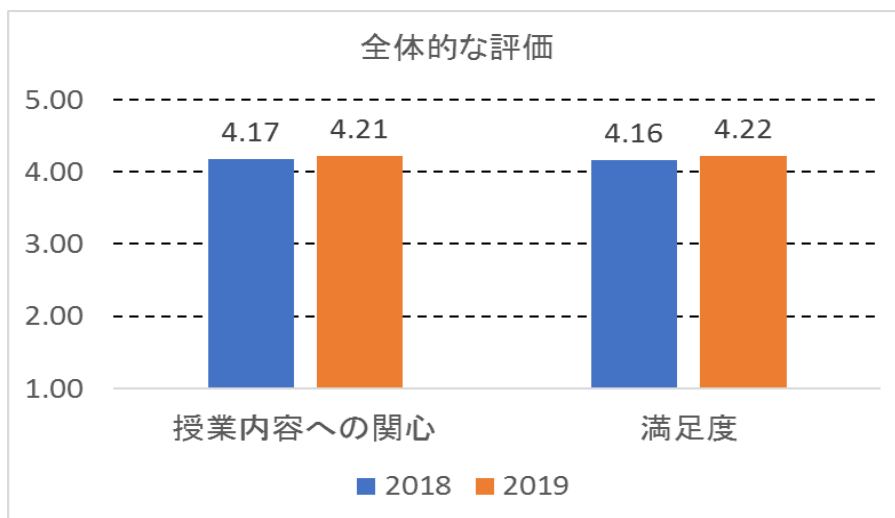
(2) 授業への取り組み



授業の内容, 方法, 教員の取り組みについてはレンジ 4.13~4.32 であり全て 4.0 以上で高い評価を得た最も高得点 (4.32) であったのは「教員の取り組み姿勢に誠意, 誠実さ, 真剣さを感じた」であり, 次に高得点 (4.26) だったのは「教員の話し方は聞き取りやすかった」, 「教員は, 学生の質問や疑問,

意見に適切に対応した」であった。今年度の平均値は 4.22 であり、各教員の授業への真摯な取組みと熱意に心から感謝したい。参考までに、2017 年度 4.20、2018 年度 4.16 であり今年度は上昇した。

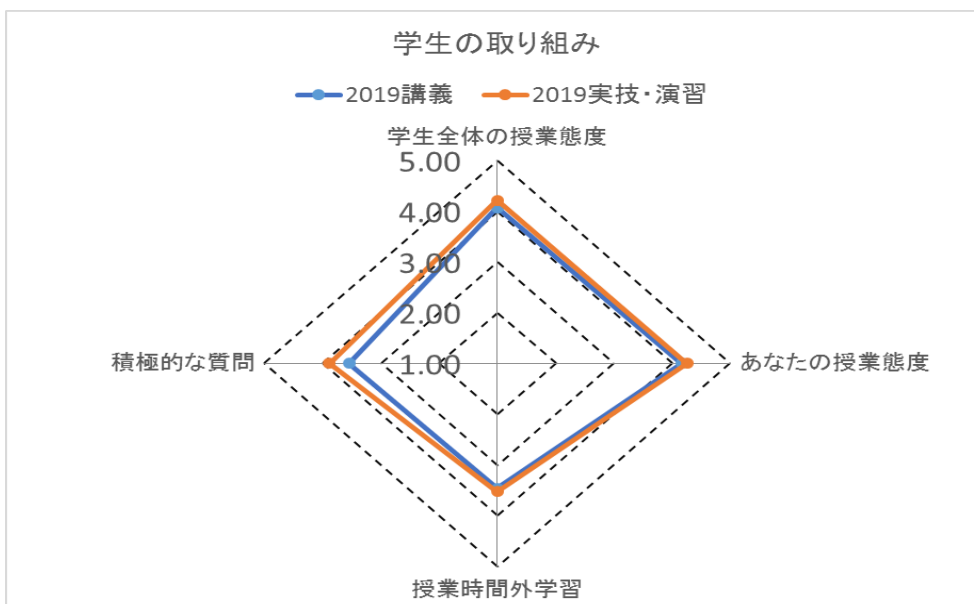
(3) 全体的な評価



「この授業に関連する内容への関心が深まった」、「この授業を受けて満足している」という全体的な評価については、両者ともに昨年度に比べて若干ではあるが上昇している。高水準を維持しており、適切な授業が展開されていると捉えることができる。

4 講義系科目と実技・演習系科目

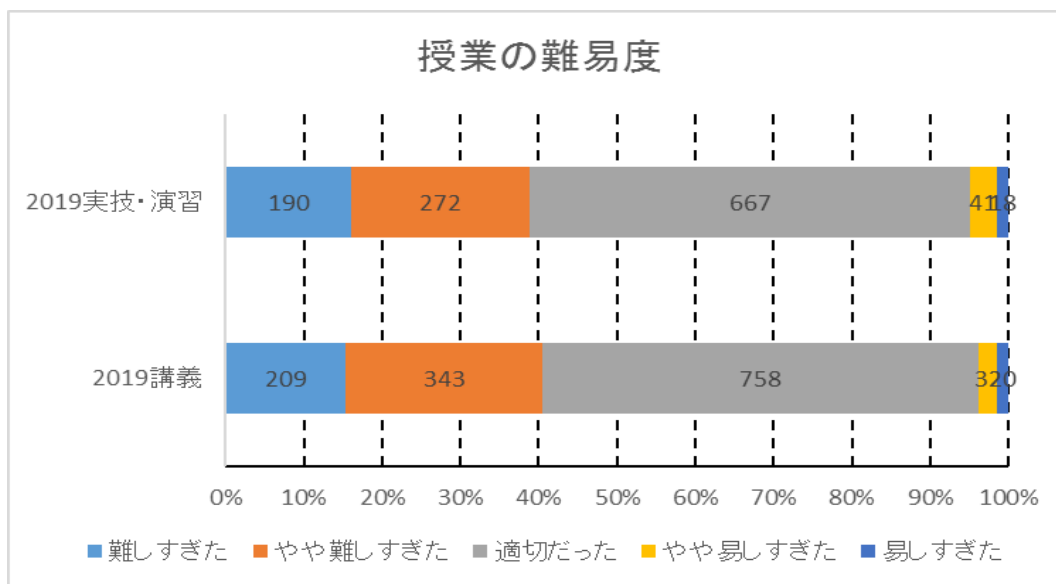
4-1 学生の取り組み



「学生全体の授業態度」(講義 4.07<実技・演習 4.21)、「本人の授業態度」(講義 4.16<実技・演習 4.26)、「積極的な質問」(講義 3.55<実技・演習 3.89)、「予習・復習を行った」(講義 3.46<実技・演習 3.52) であり 4 項目ともに実技・実習系科目の評価が高い結果となった。実技・演習科目の方がよく質問をしている様子である。

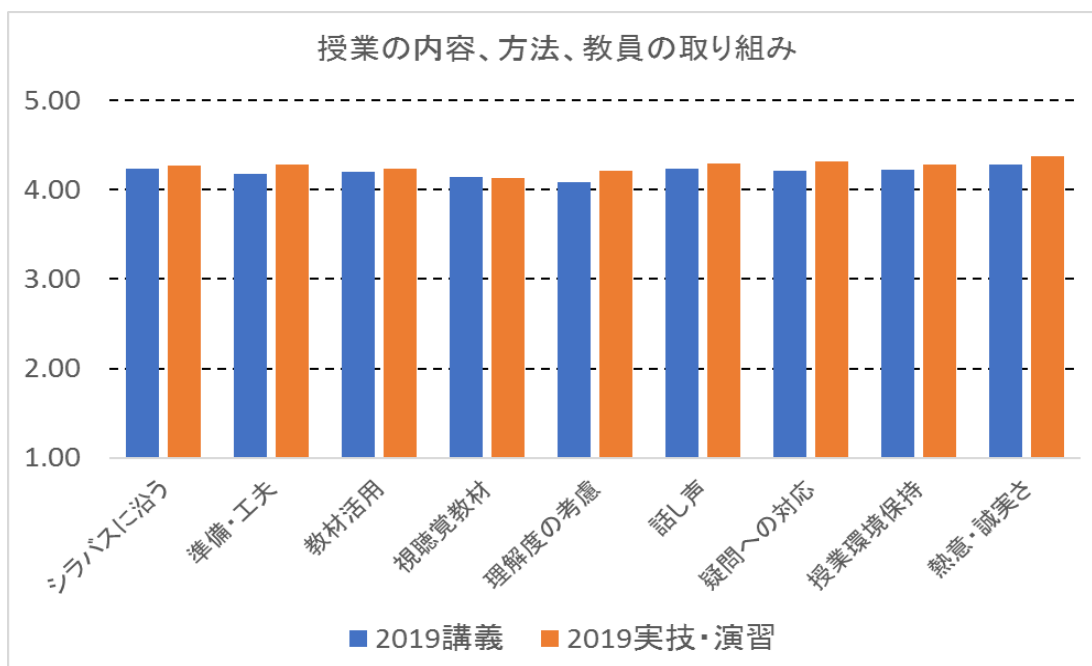
4-2 授業の内容、方法、教員の取り組みについて

(1) 難易度について



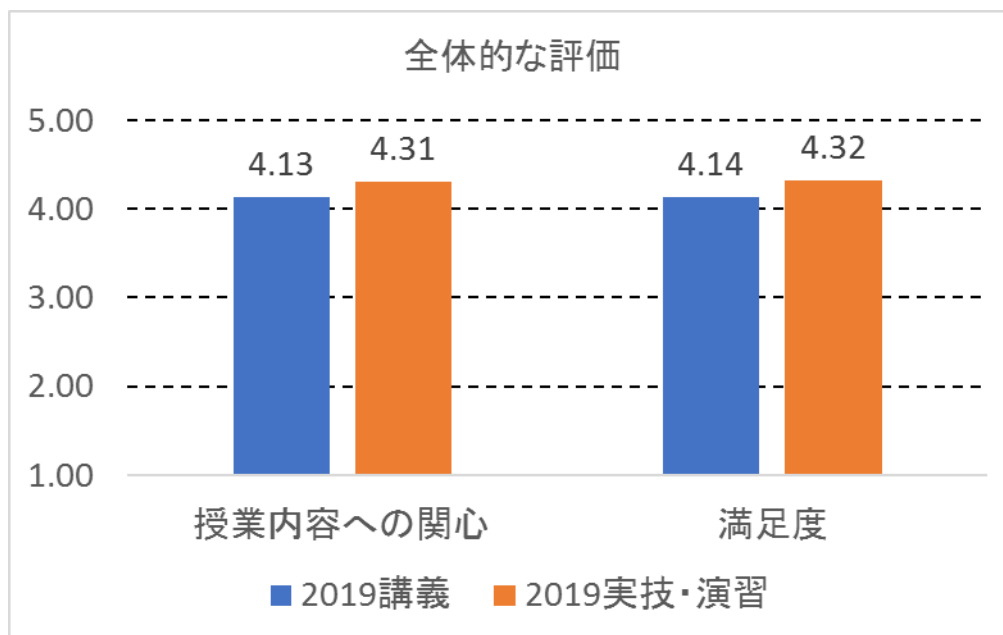
授業の難易度に関して、「適切だった」との回答率が実技・演習系科目と講義系科目を比較してほぼ差が見られない結果となった。それと同時に、「難しすぎた」、「やや難しすぎた」の合計回答率が40%程度ではほぼ同率である。昨年度までは講義系科目の方が10ポイントほど「難しい」と感じる割合が多かったが、講義系科目においても様々な工夫がなされ、実技・演習系科目との差がなくなってきたことが推察される。ただし、個別の学生に目を向ければ実技系科目は得意不得意がはっきりと分かれるため、科目によっては現在行っているようにTA等を活用して苦手な学生の支援が引き続き必要と思われる。他方、「やや易しすぎた」、「易しすぎた」と感じている学生が一定の割合でいることにも配慮する必要がある。

(2) 授業への取り組み



授業への取り組みについては、実技・演習系科目の評価点が講義系科目を僅かに上回っていた。実技・演習系科目はレンジ 4.13~4.37 で評価平均値が 4.26 (昨年度 4.22), 講義系科目はレンジ 4.09~4.28 で評価平均値が 4.19 (昨年度 4.11) であり、実技・演習系科目、講義系科目ともにやや上昇した。本学生の特徴として座学より実技や演習で身体を動かすなどの体験的学習を好む傾向があるが、両者の平均値は近づいてきている。今後も、講義科目においてもグループワークやアクティブ・ラーニングなどの参加型・能動的な授業形態を積極的に取り入れる必要があると思われる。

(3) 全体的な評価



「この授業に関連する内容への関心が深まった」、「この授業を受けて満足している」という全体的な評価について、2018 年度と同様に、実技・演習系科目が講義系科目を上回る結果となった。しかしながら、講義系科目も平均 4.0 を上回る結果となっており、(講義系) 授業への関心 2018 年度 4.08, 満足度 2018 年度 4.07 に比較すれば全体的にポイントが上がっている。これは各教員の努力の成果といえる。

5 まとめ

2019 年度春学期「学生による授業評価と授業改善のためのアンケート」の結果から、学生の取り組み、授業の内容、方法、教員の取り組み、全体的な評価の全ての評価項目において高水準を維持しており、昨年度と比較しても上昇傾向がみられた。また、学生にとっては実技・演習系の科目の方が講義系の科目よりも学修意欲を喚起されるという傾向は変わらないが、ともに評価平均点が 4.1 以上であり、各講義系科目の工夫、努力が徐々に成果を上げてきているといえる。実技・演習系科目の評価が講義系科目に比べて高い評価を得ることは、他大学などでも同様に見られる。もともと、保育者を志す学生の場合、楽器を演奏したり、身体を動かしたり、制作や作業などが好きで得意であり、このような内容には興味関心を持って積極的に学ぶ姿勢があるが、一方で、座学がやや苦手という傾向はあると思われる。しかしながら、専門性の高い保育者として成長するために様々な情報や知識を学ぶために講義系科目にも積極的に取り組んでもらいたい。今後、講義系科目について、自分の世界が広がっていくことの楽しさに気づいてもらいたいと同時に、学ぶことが楽しくなるような授業者の工夫が益々必要になってく

る。

「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である」と指摘されるように、本学においても、教員と学生が相互に知性を高めていく学生主体型の学びへの転換が求められる。

また、各授業を通してどのような知識や技能および態度を学生が修得したかについて、その学修成果をきめ細かく評価し、学生にフィードバックを行っていくような仕組みづくりは時代の要請でもあり、喫緊の検討課題である。

以上